



特産果樹生産情報第3号
(5月23日～6月19日)

令和8年5月22日発表
青森県「農林水産力」強化本部

**生育状況に応じた適期管理を！
適正着果で高品質生産を！
病虫害防除対策を万全に！**

I 要 約

- 各樹種において、生育が平年より1週間程度早まっていることから、管理作業は遅れないよう適期に行う。
- ぶどうは、摘心、花穂整形、無核処理等の管理作業を適期に行う。
- おうとうは、裂果防止のため遅れないよう雨よけ被覆を行い、適期収穫に努める。
- ももは、硬核期が始まる前に仕上げ摘果を終える。前年にせん孔細菌病の発生が多かった園地では、薬剤散布と耕種的防除を組み合わせた総合的防除を徹底する。
- なしは、落花25日後頃までに仕上げ摘果を終える。西洋なしでは、6～7月の幼果期は輪紋病に最も感染しやすいので、10日間隔の薬剤散布を徹底する。
- もも及びなしで、コンフューザーRの設置がまだ終わっていない園地では、すみやかに設置する。

報道機関用提供資料	
担 当 課	農林水産部りんご果樹課
担 当 者	生産振興グループ GM 工藤 秀樹
電話番号	直通 017-734-9492 内線 5146
報 道 監	農林水産部 次長 相馬 宏伊 (内線: 4967)

II 特産果樹生産情報

1 生育概況

- ・「キャンベル・アーリー（露地）」の展葉日は五戸で平年より9日早く、「スチューベン」の展葉日は黒石で平年より8日早かった。
- ・「佐藤錦」の落花日は五戸で平年より3日早く、「ジュノハート」の落花日は五戸で平年より6日早かった。
- ・「川中島白桃」の落花日は五戸で平年より7日早かった。
- ・「ゼネラル・レクラーク」の落花日は五戸で平年より7日早かった。

○ぶどうの生育ステージ

(5月22日現在)

品種	場所	年	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日	ハウス被覆日	
スチューベン	五戸	本年	4.26	5.4				/	
		平年	4.30	5.12	6.21	6.23	7.1		
		前年	5.1	5.10	6.18	6.21	6.28		
	黒石	本年	4.20	4.30					/
		平年	4.28	5.8	6.16	6.19	6.28		
		前年	4.25	5.7	6.16	6.18	6.27		
キャンベル・アーリー (露地)	五戸	本年	4.22	5.2				/	
		平年	4.27	5.11	6.18	6.20	6.25		
		前年	4.25	5.7	6.16	6.18	6.23		
シャインマスカット (簡易雨よけ)	五戸	本年	4.27	5.4					/
		平年	4.30	5.12	6.26	6.29	7.2		
		前年	5.3	5.11	6.22	6.25	6.29		
シャインマスカット (露地)	黒石	本年	4.22	5.5				/	
		平年	5.1	5.11	6.23	6.26	6.30		
		前年	5.2	5.12	6.22	6.24	6.26		

注1) 場所の五戸はりんご研究所県南果樹部、黒石はりんご研究所、以下同様。

注2) 平年値は2006～2025年(20年間)の平均。ただし、「シャインマスカット(簡易雨よけ)」の発芽日は2013～2025年(13年間)、展葉日は2012～2025年(14年間)、開花日、満開日、落花日は2011～2025年(15年間)、「シャインマスカット(露地)」は2009～2025年(17年間)の平均。

○おうとう、もも及びうめの生育ステージ

(5月22日現在)

樹種	品種	場所	年	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日
おうとう	佐藤錦	五戸	本年	4.15	4.28	4.26	4.28	5.11
			平年	4.21	5.2	4.30	5.3	5.14
			前年	4.17	5.2	4.30	5.3	5.15
		黒石	本年	4.13	4.30	4.22	4.26	5.9
			平年	4.20	5.5	4.30	5.3	5.14
			前年	4.18	5.3	4.27	5.1	5.14
	ジュノハート	五戸	本年	4.17	4.27	4.25	4.27	5.8
			平年	4.22	5.2	5.1	5.3	5.14
			前年	4.17	5.2	5.1	5.3	5.15
もも	あかつき	五戸	本年	4.10	4.27	4.21	4.25	5.4
			平年	4.14	5.5	5.1	5.3	5.12
			前年	4.9	5.2	4.28	5.1	5.12
	川中島白桃	五戸	本年	4.15	4.30	4.23	4.28	5.8
			平年	4.16	5.6	5.3	5.5	5.15
			前年	4.17	5.5	5.1	5.5	5.15
		黒石	本年	4.10	5.2	4.24	4.26	5.6
			平年	4.18	5.9	5.2	5.5	5.14
			前年	4.13	5.9	5.2	5.6	5.14
うめ	豊後	五戸	本年	3.16	4.17	4.9	4.11	4.20
			平年	3.19	4.26	4.20	4.22	4.29
			前年	3.19	4.20	4.17	4.18	4.26

注) 平年値は2006～2025年(20年間)の平均。ただし、「ジュノハート」の発芽日、開花日、満開日、落花日は2009～2025年(17年間)、展葉日は2012～2025年(14年間)の平均。

○なしの生育ステージ

(5月22日現在)

樹種	品種	場所	年	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日
西洋なし	ゼネラル・レクラーク	五戸	本年	4.6	4.20	4.25	4.26	5.4
			平年	4.10	4.28	5.3	5.5	5.11
			前年	4.7	4.26	5.3	5.4	5.11
	ラ・フランス	五戸	本年	4.5	4.20	4.25	4.28	5.3
			平年	4.9	4.28	5.4	5.5	5.11
			前年	4.5	4.27	5.3	5.4	5.11
日本なし	幸水	五戸	本年	4.8	4.24	4.26	4.27	5.10
			平年	4.10	5.1	5.4	5.5	5.15
			前年	4.6	4.28	5.1	5.3	5.17

注) 平年値は2006～2025年(20年間)の平均。

2 コンピューターRによる主要害虫の防除(もも、なし)

コンピューターRの設置がまだ終わっていない園地ではすみやかに設置する。

コンピューターRの具体的な設置方法については、農ナビ青森に掲載している。

(<https://www.nounavi-aomori.jp/farmer/archives/8495>)



3 作業の重点

(1) ぶどう（露地栽培）

ア 新梢の誘引、結束

薬剤や日光の通りを良くするため、新梢は随時角度や間隔を調整しながら架線に誘引し、結束する。

イ 摘心（1回目）

開花7日前頃（新梢の展葉10枚時頃）に、下表に従い、品種や樹勢に応じた摘心を行う。

品種別摘心方法（1回目の摘心）

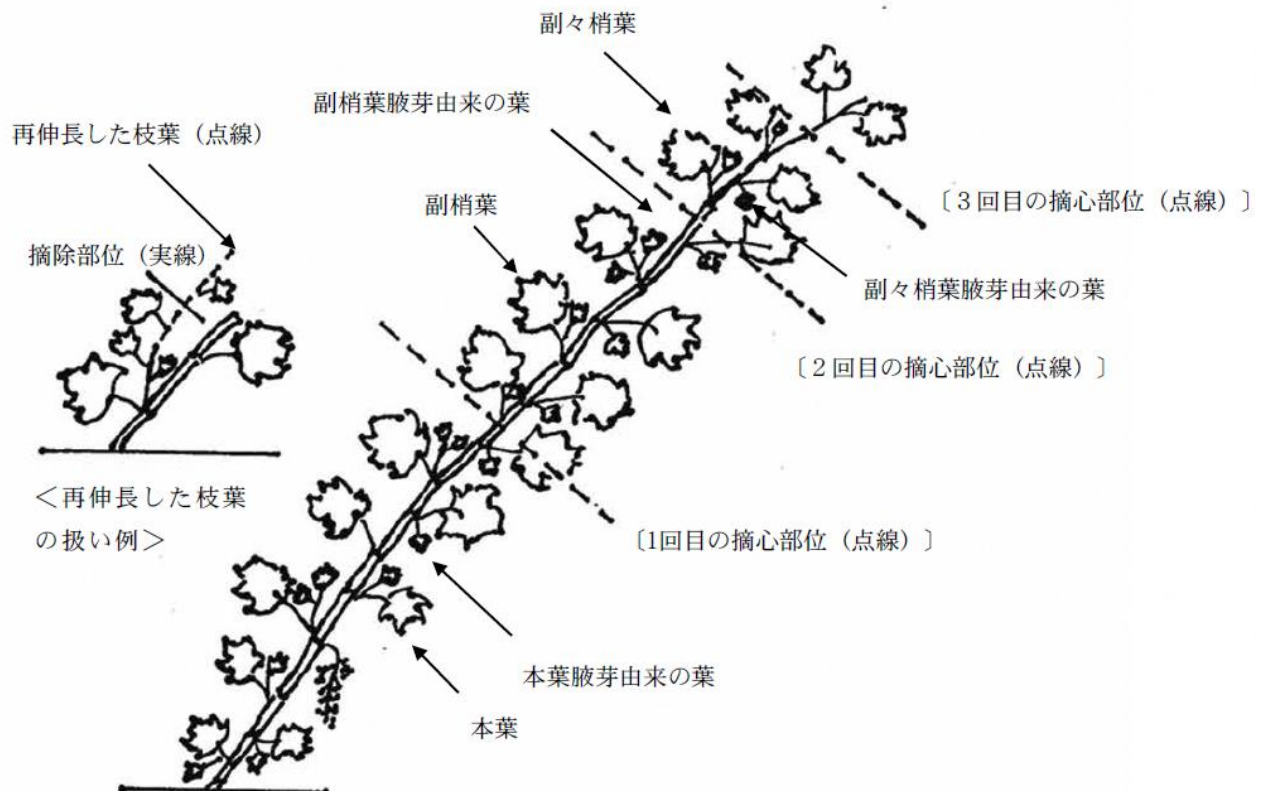
品種	樹勢	摘心部位	副梢の取り扱い
スチューベン	強 中	第1花穂上位5枚	①すべての副梢を欠いた後に発生した先端の副梢を残す ②上位1本を残し、下位は摘除する 注)を参考に①か②を選択する
	弱		上位2本の副梢を残し下位は摘除する
キャンベル・アーリー		第1花穂上位3～4枚	上位2本の副梢を残す
シャインマスカット		第1花穂上位5枚	上位1本の副梢を残す

注1) 副梢の取り扱い（「スチューベン」）

①では、着粒密度は高くなるが、果粒が小さくなり、熟期が遅れる。

②では、品質、着色は良くなるが、着粒密度がやや劣る。

2) 「シャインマスカット」の腋芽由来の枝葉は、摘心時から摘心3日後頃に葉を1～2枚残し摘除する。



- 注) 1 本葉、副梢葉、副々梢葉の腋芽由来の葉と再伸長した枝葉はいずれも随時（摘心時～摘心3日後頃）1～2葉残し、結果枝当たりでは概ね35～40葉残す。
- 2 結果枝の生育状況により、節位ごとの腋芽由来の発生葉数は異なるが、1～2葉残した後に枝葉が再伸長しない生育が望ましい。
- 3 節位は枝の基部から伸長方向順に第1節、第2節、第3節・・・と示すが、第1節、第2節は腋芽由来の葉が発生しない場合がある。

結果枝の摘心と葉の残し方（「シャインマスカット」）

ウ 「シャインマスカット」の新たな摘心方法（摘心時期の拡大）

「満開日頃」又は「満開日10日後頃」のいずれかに実施する。

この方法により、花穂整形や無核処理と摘心作業との重複を軽減できる。

(ア) 満開日頃の摘心

1回目は、満開日頃（80%程度開花した花穂が樹全体の80%程度の日）、2回目は7月中旬、3回目は8月中旬に行う。

摘心は、新梢（結果枝）当たりの葉数は数えず、枝先の若い葉から数える。

1回目と2回目は1枚、3回目は2枚展葉した葉を含めた部位で行う（図摘心部位と展葉した葉の大きさ）。

なお、摘心で残る新梢（結果枝）の葉数と長さの目安は、1回目は13枚、140cm、2回目は18枚、190cm、3回目は18枚、200cmとし、腋芽由来枝葉は随時1～2葉残す。

(イ) 満開10日後頃の摘心

1回目は7月上旬の満開10日後頃、2回目は8月中旬に行う。

摘心は、新梢（結果枝）当たりの葉数は数えず、枝先の若い葉から数える。

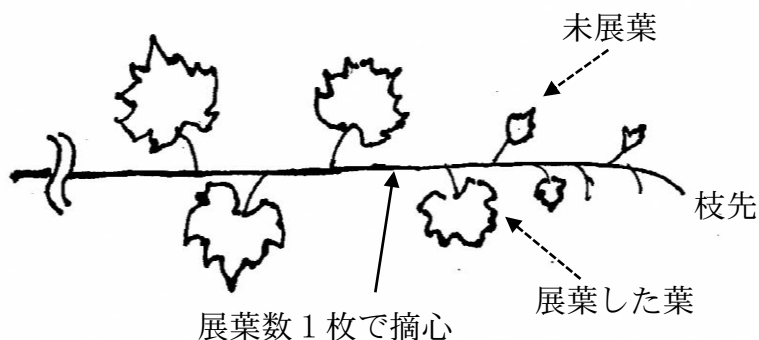
1回目は1枚、2回目は3枚展葉した葉を含めた部位で行う（図 摘心部位と展葉した葉の大きさ）。

なお、摘心で残る新梢（結果枝）当たりの葉数と長さの目安は、1回目は15枚、160cm、2回目は18枚、200cmとし、腋芽由来枝葉は随時1～2葉残す。

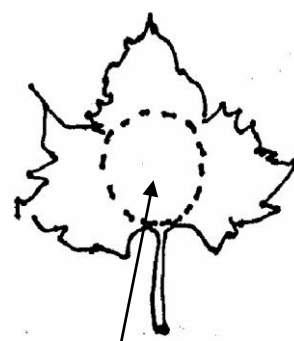
(ウ) 栽培上の留意点

- ①摘心と無核処理を同日に行っても果実品質への悪影響はない。
- ②1回目の摘心時期が満開20日後頃になると、果皮の黄化と果皮障害（かすり症）が発生する可能性があるため遅れないように実施する。
- ③新梢（結果枝）が8月下旬以降も伸長する場合は、枝の登熟を促すため、伸長した部分の枝先を切除する。

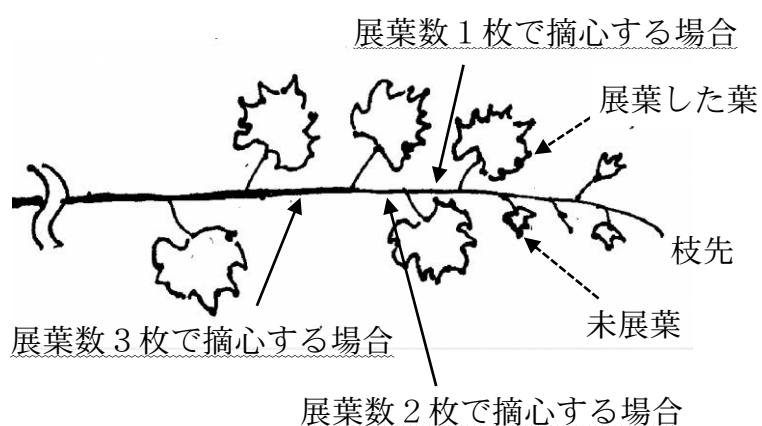
<1回目の摘心部位>



<展葉した葉の大きさ>



<2回目及び3回目の摘心部位>



摘心部位と展葉した葉の大きさ

エ 花穂の整形

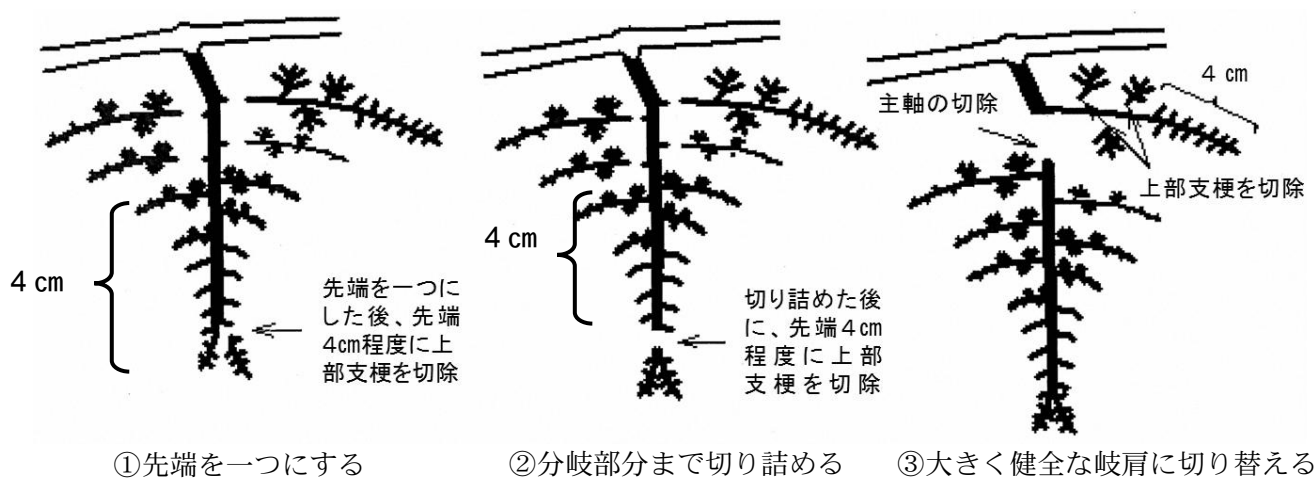
開花5日前頃から1～2花咲き始める時（花穂がほぼ伸びきった頃）が適期である。

「キャンベル・アーリー」は、岐肩、岐肩下の長い支梗や軸の間隔が広い支梗を除去し、花穂の先端を切り詰める。「スチューベン」は、岐肩のみを切除する。

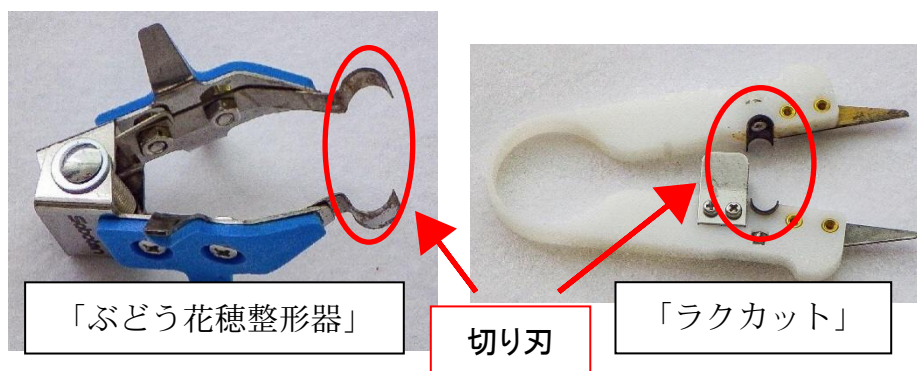
「シャインマスカット」は、岐肩と上部の支梗を切除し、花穂の長さが4cm程度になるようにする。先端が二股などの異常花穂を利用しなければならない場合は、

①先端を一つにする、②分岐部分まで切り詰める、③岐肩下の支梗に切り替えるのいずれかの方法を選んで実施する。

なお、花穂整形を行う際、花穂整形器（商品名「ぶどう花穂整形器」、「ラクカット」）を利用することで作業時間の短縮が図られる。



「シャインマスカット」の異常花穂への対応の仕方



花穂整形器を用いた「シャインマスカット」の花穂整形方法

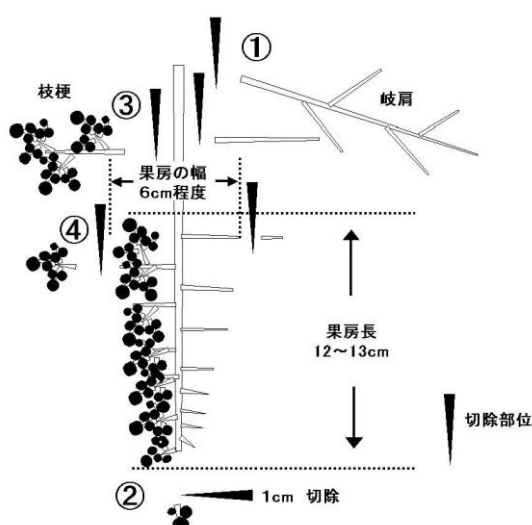
切り刃で穂軸を挟み、本体を上下方向または下方向にスライドさせて不要な支梗を切除する。花穂整形作業に要する時間は、ハサミ利用に比べて「ぶどう花穂整形器」利用の場合は40～45%程度、「ラクカット」利用では35～40%程度を短縮できる。

オ 果房の整形（「スチューベン」）

商品性が高い300g程度の円筒形密着果房を生産するため、下表に従い整形する。写真のように下から1cmの位置に線を引いた縦13.5cm、横6cmの型紙を果房にあてがうと正確に整形できる。

円筒形密着果房を生産するための果房整形法

処理時期	処理方法
開花前（6月中旬頃）	・岐肩を切除する（図の①）
果粒が小豆粒大頃（7月上旬頃）	・果房の先端を1cm切除する（図の②） ・果房長が12～13cmになるように果房上部の支梗を切除する（図の③） ・残した果房は幅が6cm程度になるように切り詰める（図の④）
果粒が小豆粒大以降	・無核小粒果を摘粒する



「スチューベン」の果房整形法



「スチューベン」の整形用型紙の使用法

カ 追肥

開花直前頃に標準施肥量の10～20%程度を追肥する。施肥量は、成木（5年生以上）10a当たり窒素1.5～3kg、リン酸1～2kg、カリ1～2kgを目安とする。

キ 若齡樹に対する果粒肥大促進（「シャインマスカット」）

若齡樹（概ね3～6年生）は果粒の肥大が劣る傾向にある。展葉6～8枚時にフルメット液剤2ppm溶液を花穂に十分かかるように散布することにより、果房の品質向上を図ることができる。

ク 無核処理（「シャインマスカット」）

無種子化を確実にするため、次の手順に従って処理を行う。

<手順>

① ストレプトマイシン処理

満開予定日14日前～開花始期にストレプトマイシン200ppm溶液を花房に散布または浸漬する。

② ジベレリン処理

満開時の処理は、写真のように花穂の先端まで開花したことを確認してから行う。

【ジベレリン2回処理の場合】

1回目は、満開時～満開3日後に、フルメット5ppmを加用したジベレリン25ppm溶液に花房浸漬する。

2回目は、満開10～15日後に、ジベレリン25ppm溶液に果房浸漬する。

【ジベレリン1回処理の場合】

満開3～5日後（落花期）に、フルメット10ppmを加用したジベレリン25ppm溶液に花房浸漬する。



満開時の「シャインマスカット」の花穂

ケ 予備摘粒（「シャインマスカット」）

予備摘粒は、ジベレリン2回処理の場合に限り行う。1回目の処理日から5～7日後頃に、果房の軸長を6cmに調整する。その際、果房の内側（軸の方向）に向けた果粒を優先して摘粒し、小粒や障害果も摘粒する。

なお、着粒数は果粒軟化期前までに仕上げ摘粒を行い、成木では40粒程度、若齢樹では40～50粒程度とする。

コ 病害虫防除

灰色かび病やべと病等の重要な防除時期なので、各病害虫に対する有効薬剤を選択し、適期に適量の薬剤散布を行う。

（ア）薬剤散布

「キャンベル・アーリー」基準

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10a
開花10日前頃	アリエティック水和剤 800倍	ベストガード水溶剤 1,000倍	250ℓ
	又はオソサイト水和剤 800倍	又はアグロリン水和剤 2,000倍	
	又はチラム剤 1,000倍	又はアティオンフロアブル 1,500倍	
	又はインダーフロアブル 8,000倍		
	又はホルリワンフロアブル 2,000倍		
	又はヘランティーフロアブル 8,000倍		
開花直前	アリエティック水和剤 800倍	ベストガード水溶剤 1,000倍	250ℓ
	又はオソサイト水和剤 800倍	又はパダンSG水溶剤 1,500倍	
	又はゲッター水和剤 1,500倍	又はジメフラン剤 2,000倍	
	又はフルツェイバー 1,500倍		
落花直後	ロブラル水和剤 1,500倍	アグロリン水和剤 2,000倍	250ℓ
	又はアリエティック水和剤 800倍	又はアティオンフロアブル 1,500倍	
	又はスイッチ顆粒水和剤 2,000倍	又はジメフラン剤 2,000倍	
	又はフルビカフロアブル 2,000倍		

「スチューベン」基準

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10 a
開花10日前頃	アリエティック水和剤 800倍 又はキントール水和剤40 600倍 又はチラム剤 1,000倍 又はインターフロアブル 8,000倍 又はオンリーワンフロアブル 2,000倍 又はベランティーフロアブル 8,000倍	ベストガード水溶剤 1,000倍 又はアグロリン水和剤 2,000倍 又はアディオンフロアブル 1,500倍	2500
開花直前	アリエティック水和剤 800倍 又はゲッター水和剤 1,500倍	ベストガード水溶剤 1,000倍 又はパタンSG水溶剤 1,500倍 又はジメフラン剤 2,000倍	2500
落花直後	ロヴェール水和剤 1,500倍 又はアリエティック水和剤 800倍 又はスイッチ顆粒水和剤 2,000倍 又はフルビカフロアブル 2,000倍	アグロリン水和剤 2,000倍 又はアディオンフロアブル 1,500倍 又はジメフラン剤 2,000倍	2500

「シャインマスカット」基準

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10 a
新梢伸長期 (約30cm)	ジマンタイエン水和剤 1,000倍 又はホリキシンAL水和剤 500倍 又はチラム剤 1,000倍 又はインターフロアブル 8,000倍 又はオンリーワンフロアブル 2,000倍 又はベランティーフロアブル 8,000倍	—	2500
開花10日前頃	アリエティック水和剤 800倍 又はキントール水和剤40 600倍	ベストガード水溶剤 1,000倍 又はパタンSG水溶剤 1,500倍 又はジメフラン剤 2,000倍	2500
開花直前	アリエティック水和剤 800倍 又はゲッター水和剤 1,500倍	アグロリン水和剤 2,000倍 又はアディオンフロアブル 1,500倍 又はジメフラン剤 2,000倍	2500

注1) チラム剤：チノックフロアブル、トノックスフロアブル

2) ジメフラン剤：スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤

3) アリエティック水和剤は最後に調合する（物理性の悪化）。

4) DMI剤（インターフロアブル、オンリーワンフロアブル、ベランティーフロアブル）とフルツバハールは、薬剤耐性発達の懸念があるので、それぞれ年1回の使用にとどめる。

(イ) 灰色かび病対策（「キャンベル・アーリー」）

「開花10日前頃」の薬剤散布後に低温が続いて、次回の「開花直前」までの散布間隔が開きすぎる場合、「開花見込みの1週間前頃」にピクシオD F 2,000倍を特別散布する。例年発生が多い園地では、「開花直前」にゲッター水和剤又はフルーツセイバーを選択する。

(ウ) ベと病対策（「スチューベン」、**「シャインマスカット」**）

軟弱な生育を避けるために、生育が旺盛な園地では追肥を控えるなど、窒素肥料を施用し過ぎない。発病葉や発病果房は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。排水不良園では、排水溝を掘って、雨水が長く溜まらないようにする。

発生が多い園地では、以下の対策を行う。

① 「スチューベン」

「開花10日前頃」にアリエッティC水和剤、キノンドー水和剤40、チウラム剤のいずれか、「開花直前」と「落花直後」にアリエッティC水和剤を選択する。「落花直後」にアリエッティC水和剤を使用しない場合は、ランマンフロアブル2,000倍又はライメイフロアブル4,000倍も使用する。

② 「シャインマスカット」

「新梢伸長期（約30cm）」にジマンダイセン水和剤又はチウラム剤、「開花直前」と「落花直後」にアリエッティC水和剤を選択する。「落花直後」にアリエッティC水和剤を使用しない場合は、ランマンフロアブル2,000倍又はライメイフロアブル4,000倍も使用する。

なお、ランマンフロアブルとライメイフロアブルは、薬剤抵抗性発達回避のため、「スチューベン」では合わせて年1回、「シャインマスカット」では合わせて年2回以内の使用にとどめる。

(エ) 黒とう病対策（**「シャインマスカット」**）

発生が多い園地では新梢伸長期（約30cm）にジマンダイセン水和剤、チウラム剤、インダーフロアブル、オンリーワンフロアブル、ベランティーフロアブルのいずれかを選択する。

(2) ぶどう（無加温ハウス）

ア ハウス内の温度管理

高温による花振るいなどの障害を防止するため、日中の温度は25℃を目標とし、30℃以上にならないように徹底して換気する。

イ 摘心（2回目）

副梢の展葉枚数が8～9枚になった頃に行う。1回目の摘心後に伸びた副梢を5～6枚残して摘心する。摘心部位の先端の副々梢だけを残して、他は全て摘除する。これ以降も副々梢が伸びる場合は3～5葉で摘心を行う。

ウ 「シャインマスカット」の新たな摘心方法（摘心時期の拡大）

露地栽培に準ずる。

エ 摘 房

「キャンベル・アーリー」は比較的花振るいが強いので、果房の形が決まってから行う。「キャンベル・アーリー」などの中粒種の着房数の目安は次のとおりである。

- 生育が極端に劣る結果枝 ：原則として全て摘房
- 生育がやや劣る結果枝 ：1果房
- 中庸または旺盛な生育の結果枝：2果房

「シャインマスカット」などの大粒種は、原則として1結果枝1果房とする。

オ 摘 粒

果粒の大きさが小豆粒大の頃（満開後15～25日）から始め、8月上旬頃（果粒軟化期前）には終える。

「シャインマスカット」の予備摘粒は、ジベレリン2回処理の場合に限り行う。1回目処理日から5～7日後頃に、果房の軸長を6cmに調整する。

品種別の摘粒の目安は下表のとおりである。小粒果やさび果などの障害果のほか、果粒が外向きに並ぶように内側の果粒を除去し、目安の果粒数にする。

品種別目標果房重と果粒数（摘粒の目安）

品種	果房重（g）	1粒重（g）	果粒数（粒）
キャンベル・アーリー	350	6.0	55～65程度
シャインマスカット	450～550	12～13	40程度

カ 病虫害防除

露地栽培に準ずる。

(3) おうとう

ア 摘果

1 花束状短果枝当たりの着果数を2～3果に制限し、果実肥大の促進や着色の向上を図る。摘果する果実は、障害果や病虫害被害果、肥大の劣るものを優先して行う。生理的落果が終わり、実止まりが確認された後（果実横径が「佐藤錦」、「南陽」、「ジュノハート」では10mm以上）から満開30日後頃までに摘果する。

「ジュノハート」は収穫期に果実が肥大しても互いに触れ合わない程度の間隔に摘果する。なお、満開19～23日後頃に果実横径が10mm程度のものでも、果皮の光沢がなく、変色している果実は落下するため摘果する。

「紅秀峰」は豊産性のため着果過多となり果実品質の低下や樹勢衰弱を招きやすいので必ず摘果する。摘果は、果実横径が8mm以上になる満開17日後頃から行い、1花束状短果枝当たり2果に制限する。

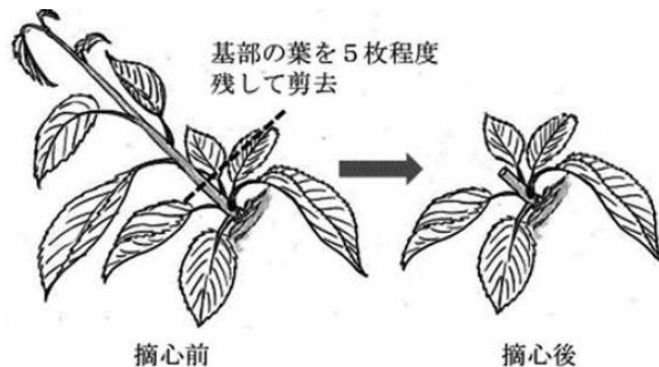


摘果する果実

イ 摘心

樹勢が強くと新梢伸長が旺盛な場合は、樹勢の抑制や樹冠内の明るさを保つために摘心を行う。摘心時期は満開後3～4週間とし、摘心方法は新梢基部の葉を5枚程度（新梢の基部1～2cm程度）残して切る。

摘心は側枝の背中から伸びた強い新梢や、主枝または側枝の延長枝と競合する新梢に対して行う。着果が極端に少ない場合は、裂果を助長することがあるので、樹冠内の明るさを保つ程度にとどめる。



摘心の方法

ウ 裂果防止対策

生育ステージが早まっていることから、雨よけフィルムの被覆を遅れないようにする。

被覆時期は、「佐藤錦」では地色が抜けてわずかに着色した果実が見え始めた頃で、「ジュノハート」では満開30日後までに被覆を終えるようにする。「ジュノハート」の裂果が始まる時期の果皮色は、緑色が薄くなり、やや黄色みを帯びる（下画像参照）。

湿度が高い状態が続くと、雨よけ施設内でも裂果が多発することがあるので、以下の対策も講じる。

- 送風機などの設置により空気の流れを起こす。
- 目合い1mmの防風ネットの設置により湿度の上昇を遅らせ、果実表面の濡れを防ぐ。



裂果の始まる直前の
「ジュノハート」の果皮色



裂果の始まる時期の
「ジュノハート」の果皮色



「ジュノハート」の
着色始期

エ 葉摘みによる着色の向上

収穫予定の7～10日前頃の果実の着色がある程度進んでから、果実に直接覆いかぶさっている葉を摘み取る。摘み取る葉の量が多いと果実品質が低下し、翌年の花芽の充実不良や樹勢の低下を招く恐れがあるので最小限にとどめる。



葉摘み前



葉摘み後

葉摘みの程度

オ 収穫

収穫時期の判定は、満開日からの日数（右表参照）を目安にしながら、果皮の着色程度、食味、果実の用途などから総合的に行う。

「ジュノハート」は、「満開55日後頃（五戸で6月21日頃）」を収穫始めの目安とする。専用カラーチャートを利用し、着色指数5以上の果実からすぐりもぎする。「満開60日後頃（五戸で6月26日頃）」以降は、着色指数4以上の果実を収穫する。

品種	満開日から収穫 始めまでの日数
紅さやか	40～50日
佐藤錦	50～55日
北 光	50～60日
ジュノハート	55～60日
紅秀峰	60～70日
サミット	60～65日
南 陽	60～65日

収穫はなるべく朝や夕方の涼しい時間帯に行う。日中の高温時に収穫する時は、収穫後直ちに冷涼な日陰に置き、果実温度を下げ、鮮度を保つ。

やむを得ず降雨中に収穫した場合は、扇風機などを利用して果実を乾燥させてから出荷する。

カ 病害虫防除

灰星病や炭疽病、オウトウショウジョウバエ等の重要な防除時期なので、各病害虫に対する有効薬剤を選択し、遅れないよう適期に薬剤散布を行う。

(ア) 薬剤散布

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10a
満開25日後頃	ホソバト [®] 水和剤 800倍	ダイジ [®] ン水和剤 1,000倍	500ℓ
満開35日後頃	アミスター10フロアブル 1,000倍 又はファンタジ [®] スタ顆粒水和剤 3,000倍 又はナリアWDG 2,000倍 又はアンビ [®] ルフロアブル 1,000倍 又はオリーワンフロアブル 2,000倍	テルスターフロアブル 4,000倍 又はス [®] ルン剤 10,000倍	500ℓ
収穫前 (佐藤錦)	アミスター10フロアブル 1,000倍 又はナリアWDG 2,000倍 又はインダ [®] ーフロアブル 5,000倍 又はオリーワンフロアブル 2,000倍	エケル [®] SE 2,500倍 又はテッパ [®] ン液剤 2,000倍	500ℓ
収穫前 (晩生種)	アミスター10フロアブル 1,000倍 又はナリアWDG 2,000倍	テルスターフロアブル 4,000倍 又はス [®] ルン剤 10,000倍	500ℓ

注1) 「満開35日後頃」に紅さやかななどの早生種に散布する場合、「収穫前日数」に注意して薬剤を選択する。

2) ス[®]ルン単剤のアミスター10フロアブルとファンタジ[®]スタ顆粒水和剤及び同じ系統の混合剤であるナリアWDGは、薬剤耐性発達の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。ただし、ス[®]ルン単剤は連続使用しない。

3) DMI剤(アンビ[®]ルフロアブル、オリーワンフロアブル、インダ[®]ーフロアブル)は薬剤耐性発達の懸念があるので連続使用しない。

4) ス[®]ルン剤: ティナWDG、テリゲ[®]トWDG

(イ) 灰星病対策

「満開35日後頃」以降、多発が懸念される場合は、佐藤錦の「収穫見込みの7日前頃」にインダ[®]ーフロアブル5,000倍又はパスワード顆粒水和剤1,500倍を特別散布する。

(ウ) オウトウハマダラミバエ対策

発生の多い園地では、満開25日後頃にダイアジノン水和剤の代わりにアディオ[®]ンフロアブル2,000倍を使用する。

(エ) カメムシ類対策

断続的に成虫が飛来し、葉に産卵するので、卵塊を見つけ次第、つぶして処分する。ふ化幼虫がみられたら、分散する前に捕殺する。

「満開25日後頃」に発生がみられた場合、ダイアジノン水和剤の代わりにジノテフラン剤（スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤）2,000倍又はダントツ水溶剤2,000倍を使用する。なお、オウトウハマダラミバエ対策でアディオフロアブル2,000倍を使用した場合、防除剤は必要ない。

「満開35日後頃」及び「収穫前（晩生種）」に発生がみられた場合、テルスターフロアブル4,000倍を選択する。



チャバネアオカメムシ卵塊



チャバネアオカメムシふ化幼虫

(4) もも

ア 摘果

生理的落果を考慮して、満開20～30日後頃（5月中下旬）とその10～20日後頃（6月上中旬）の2回に分けて行う。

1回目は、横向きから下向きに着生した大きめの果実を残す。残す果実数は仕上げ摘果終了時の2倍程度とする。

2回目の仕上げ摘果の程度は、短果枝（10cm以下）では4～5本に1果、中果枝（10～30cm）では1本に1果、長果枝（30cm以上）では長さによって1～3果とする。仕上げ摘果は、硬核期（満開44～75日後）が始まる前に終わる。

最終的な着果程度は、長果枝（30cm以上）で長さによって1～3果、中果枝（10～30cm）で1本に1果、短果枝（10cm以下）で4～5本に1果とする。着果量が少ないと品種によっては核割れを生じ、品質、収量が低下するので注意する。

イ 新梢整理

樹冠内部を明るく保つため、太枝の背面や先端部から伸びた徒長枝は除去する。日焼け対策として残す場合は、5～10cm程度の長さで、葉芽を残して切り取る。

ウ 袋かけ

病害虫対策のため、薬剤散布後に袋かけをし、6月末までに終える。

なお、袋かけ作業が6月20日以降になるときは、モモシンクイガ対策の防除剤を散布してから袋かけをする。

エ 病害虫防除

(ア) 薬剤散布

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10 a
落花20日後頃	マイコシールド [®] 2,000倍	ダインジン水和剤 1,000倍	400ℓ
	又はスターナ水和剤 1,000倍		
	又はICジンク水和剤 1,000倍		
	又は〔クプロシールド [®] 1,000倍 + クレフロン 100倍〕		
	ダニール1000 1,000倍 又はチラム剤 500倍 又は水和硫黄剤 500倍		
落花30日後頃	マイコシールド [®] 2,000倍	スチオン水和剤 800倍 又はリオン水和剤 1,000倍	400ℓ
	又はスターナ水和剤 1,000倍		
	又はICジンク水和剤 1,000倍 (落花30日後頃～落花40日後頃に1～2回)		
	チラム剤 500倍 又は水和硫黄剤 500倍		
落花40日後頃	ダニール1000 1,000倍	ダントツ水溶剤 2,000倍	400ℓ
	又はチラム剤 500倍		

注1) チラム剤 (チノックフロアブル、トノックスフロアブル)

2) 水和硫黄剤 (サルファゾル、イウフロアブル)

3) マイコシールド[®]とスターナ水和剤は薬剤耐性発達の懸念があるので、それぞれの薬剤を連続使用しない。

4) ICジンク水和剤は高温時の散布で葉に赤色斑点やせん孔、黄変落葉を生じるおそれがあるので注意する。

5) クプロシールド[®]は葉に赤色斑点やせん孔、黄変落葉を生じるおそれがあるので、薬害軽減のためクレフロンを必ず加用する。

(イ) 追加散布「落花50日後頃」

生育の進みが早く、概ね10日間隔での薬剤散布が困難な園地では、例年の「落花40日後頃」と「7月上旬」の間に「落花50日後頃」の散布を追加する。なお、薬剤の年間使用回数及び収穫前日数に十分注意する。

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10 a
落花50日後頃 (追加散布)	マイコシールド [®] 2,000倍	スチオン水和剤 800倍 又はリオン水和剤 1,000倍	400ℓ
	又はICジンク水和剤 1,000倍		
	+ ダニール1000 1,000倍		

注) 「落花40日後頃」までのスターナ水和剤の使用回数が2回以内の場合、「落花50日後頃」はマイコシールド[®]及びICジンク水和剤に代えてスターナ水和剤を使用できる。スターナ水和剤の年間使用回数は「3回以内」である。

(ウ) せん孔細菌病対策

薬剤散布と耕種的防除を組み合わせた総合的防除を徹底する。なお、風を強く受ける地帯で多発するので、防風対策は必ず行う。

一次伝染源である春型枝病斑の切除を徹底する。結果枝（1年枝）にできる紫褐色の病斑のほかに、生育の遅れがみられる枝、芽や枝先が枯死している枝、亀裂のある枝も発生している可能性が高いので切除する。

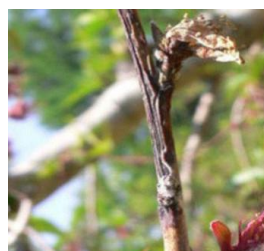
また、6～8月に新梢に発生する夏型枝病斑も重要な伝染源になるので、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

前年に果実被害が多かった園地では、果実感染を防ぐため有袋栽培とする。

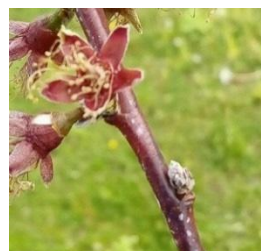
「落花30日後頃」～「落花40日後頃」にマイコシールド、スターナ水和剤、I C ジンク水和剤のいずれかを1～2回使用する。



紫褐色の病斑



開花や展葉の遅れがみられる枝



芽や幼果、枝先が枯死している枝



亀裂のある枝



せん孔細菌病夏型枝病斑

切除する枝の特徴

(5) なし

ア 摘果

予備摘果は落花5日後頃から開始し、2～4番果のうち肥大、形の良い1果を残す。主枝、亜主枝の延長枝、枝ずれを起こすような位置や上向きの果実は全て摘果する。

仕上げ摘果は、落花15日後頃から始め、遅くとも落花25日後頃までに終える。適正な着果程度は、「ゼネラル・レクラーク」で5.5～7頂芽に1果、「ラ・フランス」で4頂芽に1果、「幸水」で3～4頂芽に1果とする。

イ 芽かき

新梢が5～10cm伸びた頃（5月下旬頃）までに行う。また、受粉時や摘果時にも、見つけたらその都度かき取る。

ウ 熟期促進（日本なし）

日本なしでは、ジベレリンペーストの利用により熟期を促進できる。摘果終了後、満開30～40日後に、果梗に1果当たり20～30mgを専用のアタッチメントを用いて塗布する。その際、果面にジベレリンペーストが付着すると、さびなどの原因となるので注意する。

エ 徒長枝の整理と誘引

将来、結実枝として使用するもの以外は、枝の基部から除去する。

枝が柔らかくなる6月頃に主枝候補枝と更新枝を30度前後に誘引する。若木は枝が立ちやすいので、誘引によって樹形を整える。

オ 追肥

6月中旬に標準施肥量の20%程度を追肥する。施肥量は標準施肥量の20%程度とし、成木（11年生以上）10a当たり窒素3kg、リン酸1.2kg、カリ2.4kgを目安とする。

カ 病虫害防除

（ア）薬剤散布（西洋なし）

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10a
落花20日後頃	オキシ水和剤 500倍	ダイジノン水和剤 1,000倍	400ℓ
落花30日後頃	ベルクト水和剤 1,000倍 又はデランフロアブル 1,000倍	—	400ℓ
落花40日後頃	オキシ水和剤 500倍 又はキャプレート水和剤 600倍	ジノフラン剤 2,000倍	400ℓ

注1) ジノフラン剤：スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤

2) トップジンM水和剤を使用する場合はキャプレート水和剤を使用しない。キャプレート水和剤を使用する場合はトップジンM水和剤を使用しない。

（イ）追加散布（西洋なし）「落花50日後頃」

生育の進みが早く、概ね10日間隔での薬剤散布が困難な園地では、例年の「落花40日後頃」と「7月上旬」の間に「落花50日後頃」の散布を追加する。なお、薬剤の年間使用回数及び収穫前日数に十分注意する。

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10a
落花50日後頃 (追加散布)	オキシ水和剤 500倍	ダイジノン水和剤 1,000倍 又はイブズFWDG 1,500倍 又はエグシルSE 5,000倍	450ℓ

（ウ）黒斑病対策（「ゼネラル・レクラーク」）

徒長枝は感染しやすいので、不要なものは切り取って処分する。発病果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(エ) 輪紋病対策

伝染源となる枝幹部のいぼ病斑を孢子飛散の始まる5月下旬までに削り取り、トップジンMペーストを塗布する。削り取りができない細い枝は、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

6～7月の幼果期は輪紋病に最も感染しやすいので、10日間隔で薬剤散布を行う。なお、散布予定日に降雨が予想される場合には、事前散布に徹する。

(オ) 胴枯病対策

大枝の病患部は見つけ次第、削り取ってトップジンMペースト又はバッチレート[®]を塗布する。小黑点病斑が形成されている枝や枯死した枝は見つけ次第切り取り、適切に処分し、切り口にバッチレートを塗布する。

発生が多い園地では「落花20日後頃」、「落花30日後頃」及び「落花40日後頃」にトップジンM水和剤1,500倍も使用する。

(カ) ナシミハバチ対策

ナシミハバチの被害果は落花25日後頃までに集めて水漬けした後、処分する。

(キ) カメムシ類対策

断続的に成虫が飛来し、葉に産卵するので、卵塊を見つけ次第、つぶして処分する。ふ化幼虫がみられたら、分散する前に捕殺する。

落花30日後頃に発生がみられた場合は、イカズチWD G1,500倍を特別散布する。

(6) うめ・あんず

ア 新梢管理

6月中旬頃までに太枝の背面あるいは先端から伸びた勢力の強い枝は、果実肥大に影響を及ぼすほか、日当たりや風通しを悪くするので取り除く。

イ 病虫害防除

(ア) 薬剤散布

生育が早い園地では、例年の「6月中～下旬」を生育状況に合わせて散布する。

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10 a
落花30日後頃	オキサト [®] 水和剤 800倍	—	350ℓ
	又はイウフロアブル 500倍		
6月中～下旬	イウフロアブル 500倍	—	350ℓ

(イ) 灰星病対策

あんずでは灰星病が発生しやすいので、収穫前にオーシャイン水和剤3,000倍を特別散布する。

(ウ) 変葉病対策

発病部位は見つけ次第、摘み取って処分する。

(7) 核果類共通（おうとう、もも、うめ・あんず、すもも、ネクタリン）

コスカシバ対策として、成虫発生前の5月中～下旬に交信攪乱剤のスカシバコンシを40～100本/10a設置する。生育期に枝幹部や地際部に樹脂（ヤニ）又は虫糞の発生がみられる場合は、削り取って幼虫を捕殺あるいは刺殺する。もしくは、虫糞を取り除き、ロビンフッドのノズルを孔に差し込み、薬液を噴射する。

《 春の農作業安全運動展開中！（4～5月） 》

県では、春の農繁期を迎えるに当たり、農業機械等による事故を防止するため、「春の農作業安全運動」を展開しています。

農作業安全のポイントを意識しながら、「みんなで声がけ！安全確認」を心がけ、安全第一で農作業事故をなくしましょう。

《 ツキノワグマ出没警報発令中！！（4月20日～11月30日） 》

- ・ 1人での作業をできるだけ避け、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に努めましょう。
- ・ 果実等の収穫残さや弁当の空容器などは、クマを引き寄せる原因となるため、農地に放置せず、適切に処理しましょう。
- ・ 農地周辺の藪を刈払って見通しを良くすることで、クマの隠れ場所を無くし、クマが農地に近づきにくい環境を整えましょう。
- ・ 詳細は県ホームページをご確認ください。

(https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/shizen/kuma_cyuu.html)

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

農林水産省「農薬登録情報提供システム」 (<https://pesticide.maff.go.jp/>)

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

空気が乾燥しているので、山火事など火災の発生防止に努めましょう！

次回の「特産果樹生産情報」第4号は6月19日（金）発表の予定です。